

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

弁護人副島次郎の上告趣意第一点について。

公職選挙法二五二条が憲法に違反するものでないことは、当裁判所の判例（昭和  
二九年（あ）四三九号同三〇年二月九日大法廷判決）の示すとおりであつて、これ  
を改める必要を認めない。それ故論旨は理由がない。

同第二点について。

論旨は量刑不当の主張であつて適法な上告理由とならない。

また記録を精査しても刑訴四―一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四〇八条により主文のとおり判決する。

この判決は、裁判官全員一致の意見である。

昭和三〇年五月一〇日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	島	保
裁判官	河 村 又	介
裁判官	小 林 俊	三
裁判官	本 村 善	太 郎